

工 第1645-1号
平成23年3月28日

兵庫県工業技術振興協議会
会長 鶴井 孝文 様

兵庫県知事 井 戸 敏 三



「兵庫県への要望」に対する回答について

平成22年11月9日付けて貴協議会より要望のありました標記の件について、別添のとおり回答します。

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署										
<p>1. 県立工業技術センター新研究棟などの整備推進</p> <p>新研究棟などの整備について、現行計画どおりに着工、供用開始ができるよう整備推進していただきたい。</p>	<p>工業振興課</p>										
<p>要望事項についての現状と今後の取り組み方向等</p>											
<p>工業技術センターの整備については、平成22年12月県議会において新研究棟（技術交流館：仮称）建設工事契約の議決を得、建設工事に着手したところである。また、平成24年度以降に予定されている開放研究棟改修、本館棟撤去及び駐車場等周辺整備工事についても、昨年12月に実施設計を完了させ、発注に向けて準備しているところである。</p> <p><整備スケジュール></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 20%;">平成21～22年度</td> <td>基本設計・実施設計</td> </tr> <tr> <td>平成22～24年度</td> <td>新研究棟（技術交流館：仮称）建設工事</td> </tr> <tr> <td>平成24年度</td> <td>新研究棟供用開始</td> </tr> <tr> <td>平成24～25年度</td> <td>開放研究棟（研究本館：仮称）改修工事</td> </tr> <tr> <td>平成25年度</td> <td>本館棟撤去及び駐車場等周辺整備</td> </tr> </table> <p style="text-align: right; margin-right: 20%;">工業技術センターの整備 平成23年度当初予算額 1,736,447千円</p>		平成21～22年度	基本設計・実施設計	平成22～24年度	新研究棟（技術交流館：仮称）建設工事	平成24年度	新研究棟供用開始	平成24～25年度	開放研究棟（研究本館：仮称）改修工事	平成25年度	本館棟撤去及び駐車場等周辺整備
平成21～22年度	基本設計・実施設計										
平成22～24年度	新研究棟（技術交流館：仮称）建設工事										
平成24年度	新研究棟供用開始										
平成24～25年度	開放研究棟（研究本館：仮称）改修工事										
平成25年度	本館棟撤去及び駐車場等周辺整備										

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署									
<p>2. 県立工業技術センターの機器、設備等の充実 (1) 企業ニーズに即した機器の設置促進等</p> <p>中小企業で自社が保有することが困難な、きわめて高価な機器を工業技術センターが設置し、企業に開放する施策（機器利用、依頼試験・加工、テクトリアル）は企業に対する支援として非常に有効であり、今後とも企業ニーズに即した機器の設置の促進と適切な運用による支援をさらに強化していただきたい。</p>	<p>工業技術センター (技術企画部)</p>									
<p>要望事項についての現状と今後の取り組み方向等</p>										
<p>老朽機器の更新や新設機器の設置については、毎年、兵庫県工業技術振興協議会の会員企業をはじめとする企業のニーズを踏まえて実施している。</p> <p>とりわけ、この度の工業技術センターの整備に際しては、これまでにない規模での機器の更新と、新たな機器の設置を予定しているが、これまでと同様に、企業のニーズを踏まえ、計画的に実施していくこととしている。</p> <p>(参考) ・平成23年度に設置する主な機器 EMC評価システム（情報技術部：更新）、 イミュニティ評価システム（情報技術部：更新）、 バンバリーミキサー（材料技術部：更新）</p> <p>・平成22年度に設置した主な機器 動的接触角測定装置(材料技術部)、 微小部応力測定装置(ものづくり開発部)、 全自動検撚機（繊維工業技術支援センター：更新） 分析天秤（機械金属工業技術支援センター：更新） ECD付きクロマトグラフ（皮革工業技術支援センター：新規） 還元気化水銀測定装置（皮革工業技術支援センター：新規）</p> <p>・工業技術センター整備事業（H21～H25）における機器整備予算 約15億円</p> <table style="width: 100%; margin-top: 20px;"> <tr> <td style="width: 30%;">老朽機器更新費</td> <td style="width: 30%;">平成23年度当初予算額</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">7,837千円</td> </tr> <tr> <td>技術指導施設整備費（(財)JKA補助金を活用した機器整備）</td> <td>平成23年度当初予算額</td> <td style="text-align: right;">30,000千円</td> </tr> <tr> <td>工業技術センターの整備（機器整備費を含む）</td> <td>平成23年度当初予算額</td> <td style="text-align: right;">1,736,447千円</td> </tr> </table>		老朽機器更新費	平成23年度当初予算額	7,837千円	技術指導施設整備費（(財)JKA補助金を活用した機器整備）	平成23年度当初予算額	30,000千円	工業技術センターの整備（機器整備費を含む）	平成23年度当初予算額	1,736,447千円
老朽機器更新費	平成23年度当初予算額	7,837千円								
技術指導施設整備費（(財)JKA補助金を活用した機器整備）	平成23年度当初予算額	30,000千円								
工業技術センターの整備（機器整備費を含む）	平成23年度当初予算額	1,736,447千円								

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>2. 県立工業技術センターの機器、設備等の充実 (2) 機器を利用する者の立場に立った保守管理、運用</p> <p>県で保有する試験設備について、突発的に発生し、かつ高額な修理費用がかかる故障などによる機会損失の発生を無くすることができるよう、柔軟な予算の執行を通じて迅速に修理対応を行うなど、機器を利用する者の立場に立った適正な保守管理、運用を図っていただきたい。</p>	<p>工業技術センター (技術企画部)</p> <p>工業振興課</p>
要望事項についての現状と今後の取り組み方向等	
<p>厳しい財政状況の中で、限られた予算を有効に活用するため、機器の保守管理については必要な機器を厳選して契約している。また、保守契約を行っていない機器については、緊急を要する保守・修理が必要になった場合には、決められた予算の範囲内で可能な限り弾力的に運用し、迅速な対応に努めている。</p> <p>そのため、高額な修理費が必要な場合には新たな予算措置が必要となるなど、迅速に対応できない場合もあるが、今後ともできる限り利用者に不便をかけないように努力してまいりたい。</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署												
<p>2. 県立工業技術センターの機器、設備等の充実 (3) 機器利用における人的支援の充実</p> <p>試験分析などの試験方法や機器取り扱いなどについて、工業技術センター職員による指導及び補助をさらに充実させていただきたい。また、機器利用でデータは得られるが、出てきたデータの解釈が自社では難しい場合も多いので、データ解釈等のフォローにも対応させていただきたい。</p>	<p>工業技術センター (技術企画部)</p>												
<p>要望事項についての現状と今後の取り組み方向等</p>													
<p>機器の取り扱いについては、初めて利用される方向けに、随時、講習（受講料は無料）を実施している。また、使用方法などについて詳細な説明を要する機器については、機器利用研修会（受講料は有料）を行っている。</p> <p>平成23年度はさらに、工業技術センター整備ソフト先行事業の一つとして、機器利用の体験を通じて企業の製品開発等に向けたフィジビリティ・スタディ（FS）を支援するため、新たに導入する試験研究機器を活用した機器利用実体験講習会を実施する。</p> <p>また、各部・各支援センターが種々のメニューを考え、適宜、研修生を募集する「ものづくり基盤技術入門研修事業」（受講料は有料）において、試験分析方法や機器の取り扱いなどのうち入門的な内容についての研修を引き続き実施する。</p> <p>機器利用やテクノトライアル等で得られたデータや結果の解釈についての説明等は、データや結果を手交する際に行うこととしているが、データ等の交付後であっても、技術相談として対応することとしているので、ご活用いただきたい。</p>													
<table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">機器利用研修の開催</td> <td>平成23年度当初予算額</td> <td>1,000千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 10px;">ものづくりFS支援事業（新規）</td> <td>平成23年度当初予算額</td> <td>1,000千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 10px;">ものづくり基盤技術人材育成事業</td> <td>平成23年度当初予算額</td> <td>1,000千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 10px;">テクノトライアル</td> <td>平成23年度当初予算額</td> <td>2,500千円</td> </tr> </table>		機器利用研修の開催	平成23年度当初予算額	1,000千円	ものづくりFS支援事業（新規）	平成23年度当初予算額	1,000千円	ものづくり基盤技術人材育成事業	平成23年度当初予算額	1,000千円	テクノトライアル	平成23年度当初予算額	2,500千円
機器利用研修の開催	平成23年度当初予算額	1,000千円											
ものづくりFS支援事業（新規）	平成23年度当初予算額	1,000千円											
ものづくり基盤技術人材育成事業	平成23年度当初予算額	1,000千円											
テクノトライアル	平成23年度当初予算額	2,500千円											

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>2. 県立工業技術センターの機器、設備等の充実 (4) 迅速なクレーム解決等に役立つ分析機器の設置</p> <p>企業でクレームなどのトラブルが発生した場合、急ぎで解決しなければならぬ場合が多い。そこで、観察用の顕微鏡、マイクロ스코プやデスクトップSEMとFTIR等の前処理にあまり手間のかからない分析機器を駆使してワンストップで対応していただきたい。また、地元企業が気軽に相談できるような工業技術センターであってほしい。</p>	<p>工業技術センター (技術企画部)</p>
<p>要望事項についての現状と今後の取り組み方向等</p>	
<p>ワンストップ対応に向けた体制については、平成21年度にマイクロ스코プを導入したところである。</p> <p>また、工業技術センターの整備にあたっては、例えばハローテクノ(総合相談窓口)の近傍にある相談コーナーに使用頻度の多いマイクロ스코プやFTIR等を設置する等の工夫が考えられるところであり、今後、検討していきたい。</p> <p style="text-align: right; margin-right: 20%;"> 技術指導施設整備費 ((財)JKA補助金を活用した機器整備) 平成23年度当初予算額 30,000千円 工業技術センターの整備 (機器整備費を含む) 平成23年度当初予算額 1,736,447千円 </p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>2. 県立工業技術センターの機器、設備等の充実</p> <p>(5) 具体的機器整備に関する個別の要望</p> <p>① 酒造業界が有効活用できる試験、分析機器類の拡充整備をしていただきたい。人員削減に伴い機器の整備に手が回らず、非稼働状態の装置類も多い。メンテナンスも含めた機器の整備に関する投資をお願いしたい。</p>	<p>工業技術センター (技術企画部、 環境・バイオ部)</p>
<p>要望事項についての現状と今後の取り組み方向等</p>	
<p>酒造業界が有効に活用できる機器としては、平成21年度に原料水の分析等に用いる「ゼーマン効果型原子吸光分光分析装置」を設置したところである。</p> <p>また、新棟の建設に合わせて平成23～24年度には、香気成分の分析に必要なガスクロマトグラフ質量分析装置を、整備する予定である。</p> <p>さらに、新研究棟には、利き酒講習会等にも利用できる官能検査室を設ける予定である。</p> <p>なお、老朽機器の更新や新設機器の設置については、毎年、兵庫県工業技術振興協議会の会員企業をはじめとする企業のニーズを踏まえて実施している。</p> <p>また、機器の保守管理については、必要な機器を厳選して契約しているが、保守契約を行っていない機器については、緊急を要する保守・修理が必要になった場合には、決められた予算の範囲内で可能な限り弾力的に運用し、迅速な対応に努めている。</p> <p>そのため、高額な修理費が必要な場合には新たな予算措置が必要となるなど、迅速に対応できない場合もあるが、今後ともできる限り利用者に不便をかけないように努力してまいりたい。</p> <p style="text-align: right;">工業技術センターの整備（機器整備費を含む） 平成23年度当初予算額 1,736,447千円</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>2. 県立工業技術センターの機器、設備等の充実</p> <p>(5) 具体的機器整備に関する個別の要望</p> <p>② 種々の分析機器を揃えてはいるが、機械金属・繊維・皮革用途が多く、食品用途の分析機器が意外に少ない。また、大部分は設置後10年を越えており、中には修理・調整を行わないと直ぐに使えない状態の機器もある。中小企業が分析や測定をしたい時に、何時でも相談に応じて頂けるような体制作りに配慮していただきたい。</p>	<p>工業技術センター (技術企画部、 環境・バイオ部)</p> <p>工業振興課</p>
<p>要望事項についての現状と今後の取り組み方向等</p>	
<p>食品用途の分析機器については、食品の成分の分析に威力を発揮する液体クロマトグラフ質量分析装置や、においセンサ等の機器を新研究棟の整備にあわせて新設する予定である。</p> <p>また、各種前処理装置やP2実験室も整備するほか、これらの食品・バイオ関係施設・機器は新研究棟の5階に集中して配備することとしており、これまでより使いやすい施設にしたいと考えている。</p> <p>また、機器の保守管理については、必要な機器を厳選して契約しているが、保守契約を行っていない機器については、緊急を要する保守・修理が必要になった場合には、決められた予算の範囲内で可能な限り弾力的に運用し、迅速な対応に努めている。</p> <p>そのため、高額な修理費が必要な場合には新たな予算措置が必要となるなど、迅速に対応できない場合もあるが、今後ともできる限り利用者に不便をかけないように努力してまいりたい。</p> <p>食品関係の相談体制については、他機関との連携を図りながら対応していきたいと考えており、例えば、農業生産者の立場から酒造を含め食品に関する研究開発を行っている県立農林水産技術総合センターなど、関連機関と十分に連携して、相談に対応できるように努めてまいりたい。</p> <p style="text-align: right;">工業技術センターの整備（機器整備費を含む） 平成23年度当初予算額 1,736,447千円</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>2. 県立工業技術センターの機器、設備等の充実</p> <p>(5) 具体的機器整備に関する個別の要望</p> <p>③ 中小企業にとってニーズの高い機器でありながら、設置後15年が経過し、システム全体としての老朽化による故障の頻発や機器の高性能化への対応が出来ないなどの不都合が出てきているものがあるので、早急に、時代のニーズに合うように更新していただきたい。</p>	工業技術センター (技術企画部、 情報技術部)
要望事項についての現状と今後の取り組み方向等	
<p>老朽機器の更新や新設機器の設置については、毎年、兵庫県工業技術振興協議会の会員企業をはじめとする企業のニーズを踏まえて実施している。</p> <p>とりわけ、この度の工業技術センターの整備に際しては、これまでにない規模での機器の更新と、新たな機器の設置を予定しているが、これまでと同様に、企業のニーズを踏まえ、計画的に実施していくこととしている。</p> <p>また、中小企業にとってニーズの高い機器でありながら、設置後かなりの年数が経過している機器については、優先的に整備を行うように調整しているところであり、例えば、非常にニーズが高いEMC関連装置については、平成23年度に更新することとしている。</p> <p style="text-align: center;">工業技術センターの整備（機器整備費を含む） 平成23年度当初予算額 1,736,447千円</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>2. 県立工業技術センターの機器、設備等の充実</p> <p>(5) 具体的機器整備に関する個別の要望</p> <p>④ 包装関連の試験分析のための設備の充実、更新、メンテナンスの実施に努めていただきたい。</p>	<p>工業技術センター (技術企画部、 材料技術部)</p>
<p>要望事項についての現状と今後の取り組み方向等</p>	
<p>1 包装関連の試験分析設備については、以下のとおり維持管理や更新等を行うこととしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境試験装置、圧縮試験機、包装試験用恒温恒湿室 <p style="margin-left: 2em;">環境試験機は連続運転が多いため故障も多い。このため、毎年メンテナンスまたは修理を行い、機器利用等に支障がないように維持管理している。</p> <p style="margin-left: 2em;">新棟建設時に機器の更新は予定していないが、恒温恒湿室は設備改修を、また、環境試験機及び圧縮試験機については機器移転時に十分なメンテナンスを行う予定である。</p> ・ 振動試験 <p style="margin-left: 2em;">現在は、波形解析装置の開放利用により対応しており、新棟建設時に更新する予定である。しかし、工業技術センターに設置できる試験機には大きさに制限があり、大型の梱包物の試験については民間試験機関を紹介している。</p> ・ 落下試験機 <p style="margin-left: 2em;">落下後の外観を検査する試験を実施しているところであるが、電子機器などでの解析が必要な落下試験については、民間試験機関を紹介している。</p> <p style="margin-left: 2em;">現状では機器の更新を予定していないが、引き続き解析をとまなう落下試験の需要動向を見守ってまいりたい。</p> <p style="margin-left: 2em;">工業技術センターの整備（機器整備費を含む） 平成23年度当初予算額 1,736,447千円</p> <p>2 老朽機器の更新や新設機器の設置については、毎年、兵庫県工業技術振興協議会の会員企業をはじめとする企業のニーズを踏まえて実施している。</p> <p style="margin-left: 2em;">とりわけ、この度の工業技術センターの整備に際しては、これまでにない規模での機器の更新と、新たな機器の設置を予定しているが、これまでと同様に、企業のニーズを踏まえ、計画的に実施していくこととしている。</p> <p>3 機器の保守管理については必要な機器を厳選して契約している。また、保守契約を行っていない機器については、緊急を要する保守・修理が必要になった場合には、決められた予算の範囲内で可能な限り弾力的に運用し、迅速な対応に努めている。</p> <p style="margin-left: 2em;">そのため、高額な修理費が必要な場合には新たな予算措置が必要となるなど、迅速に対応できない場合もあるが、今後ともできる限り利用者に不便をかけないように努力してまいりたい。</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>2. 県立工業技術センターの機器、設備等の充実</p> <p>(5) 具体的機器整備に関する個別の要望</p> <p>⑤ 播州織産地企業の90%以上は、中小・零細企業であるため、本来ならば自社で設置していなければならない試験装置でさえ、備えていない企業が多いのが実情である。このため、染色、準備、製織、加工、検査の工程で発生する様々なトラブルに関して、繊維工業技術支援センターからは、問題の原因究明とその解決策を「待ったなし」で指導を得ながら、何とか急場を凌いでいるのが現状である。</p> <p>県立工業技術センター（神戸）では、新研究棟が建設されるのに伴い、種々の試験分析装置の更新をはじめ、最新鋭の試験装置が設置される計画がある。一方、現在の繊維工業技術支援センターに設置された試験装置には、老朽化した機器が多く、また故障したままで稼働できない試験装置も少なくない。</p> <p>繊維工業技術支援センターの老朽機器更新など、機器設備の充実を図っていただきたい。</p>	<p>工業技術センター (技術企画部、 繊維工業技術支援センター)</p> <p>工業振興課</p>
<p>要望事項についての現状と今後の取り組み方向等</p>	
<p>繊維工業技術支援センターにおける個別の機器の更新については、以下のとおり検討しているところである。なお、平成22年度12月補正において、一部の試験機器の更新を行ったところである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイクロスコープ マイクロスコープ装置は設置していないが、業界からの技術相談（例えば、変色、汚れ等の原因究明）の対応に不可欠な装置であると考えられるため、新たに導入することを検討している。 ・染色装置 現在、テクノトライアルや研究用に使用しているが、老朽化により電磁弁をはじめ種々の部品が故障しやすい状況となっている。修理のための部品が入手しにくい状況であるため、更新を検討している。 ・筒編機 現在、業界からの技術相談に対応するために使用しているが、老朽化により種々の部品が故障しやすくなっている。また、修理のための部品が入手しにくい状況であるため、更新を検討している。 <p style="text-align: right;">老朽機器更新費 平成23年度当初予算額 7,837千円</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>2. 県立工業技術センターの機器、設備等の充実</p> <p>(5) 具体的機器整備に関する個別の要望</p> <p>⑥ 鋳造技術分野における新たな機器を導入していただきたい。</p>	<p>工業技術センター (技術企画部、 材料技術部)</p>
<p>要望事項についての現状と今後の取り組み方向等</p>	
<p>新研究棟整備における機器整備において、X線CT装置、ラピッドプロトタイピング装置などの鋳造関連の新たな機器の整備を計画している。</p> <p>ダイカスト解析装置については、センター神戸において、クオリカ（株）のJSCASTシステムを設置しており、平成22年3月に実施したメンテナンスにより、現在、最新機能を利用できるようになっている。</p> <p>なお、現在設置している機種（JSCASTシステム）では対応できない機能や内容もあると認識しているところであり、今後、対応を検討してまいりたい。</p> <p>また、今年度に引き続き、来年度も「ものづくり基盤技術入門研修」で好評だった鋳造シミュレーションの研修講座を開催することとしており、受講者はJSCASTシステムが利用できるもので、ぜひ活用していただきたい。</p>	
<p>工業技術センターの整備（機器整備費を含む）</p> <p style="margin-left: 200px;">平成23年度当初予算額 1,736,447千円</p> <p>ものづくり基盤技術人材育成事業</p> <p style="margin-left: 200px;">平成23年度当初予算額 1,000千円</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>3. 県立工業技術センターの研究員数の確保とスキルアップ</p> <p>県立工業技術センターは、中小企業に対する技術支援の中核拠点として、技術相談、機器利用等及び共同研究等を通じて、県下の中小企業の技術支援を行っている。また、我々兵庫県工業技術振興協議会の各研究会が行う技術講習会や講演会、見学会など研究会事業の遂行にもご尽力をいただいている。今後ともこれらの支援の継続が不可欠であるとの観点から、県立工業技術センターの研究員について、以下のことを要望する。</p> <p>(1) 研究員数の確保</p> <p>他県に比べて県の規模で見ても、わが県の工業技術センターの研究員数はあまりにも少なく、本来の力が発揮できなくなっている。これ以上の研究員の削減は、県下中小企業への技術支援活動に支障をきたすようになる。行財政改革の遂行の中で研究員の増員は困難としても、現状の研究員数は確保していただきたい。</p> <p>また、ベテランの研究員の退職が続く中、早期に若手研究員を採用する等の方策を講じて、中長期的な観点からも、研究、指導等の技術支援活動が切れ目なく継続的に行えるような配慮をしていただきたい。</p>	総務課、工業振興課
要望事項についての現状と今後の取り組み方向等	
<p>兵庫県においては、「第2次新行革プラン（第二次案）」において、平成20年度から30年度までの間、事務事業・組織の徹底した見直し等により、概ね3割の削減を行うこととしている。</p> <p>その中で、研究員については、業務の重点化、任期付研究員の活用により削減を図ることとしているが、人員配置にあたっては、適正配置に向け採用などにより対応することにより、業務に支障が生じないように努めていきたい。</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>3. 県立工業技術センターの研究員数の確保とスキルアップ</p> <p>県立工業技術センターは、中小企業に対する技術支援の中核拠点として、技術相談、機器利用等及び共同研究等を通じて、県下の中小企業の技術支援を行っている。また、我々兵庫県工業技術振興協議会の各研究会が行う技術講習会や講演会、見学会など研究会事業の遂行にもご尽力をいただいている。今後ともこれらの支援の継続が不可欠であるとの観点から、県立工業技術センターの研究員について、以下のことを要望する。</p> <p>(2) 研究員のスキルアップ</p> <p>技術の高度化や専門化が急速に進み、企業の抱える課題も年々複雑なものとなっている。これらの解決にあたる工業技術センターの研究員には、これまで以上に高いスキルが求められるようになってきている。研究員のスキルアップのため、大学や企業への派遣、長期海外留学等の制度を充実していただきたい。</p>	<p>工業技術センター (技術企画部)</p> <p>工業振興課、総務課</p>
<p>要望事項についての現状と今後の取り組み方向等</p>	
<p>研究員のスキルアップを図るため、大学の研究生として、毎年1名の研究員を派遣している。平成22年度は奈良先端技術大学院大学へ派遣したところであり、平成23年度は立命館大学に派遣することとしている。</p> <p>また、平成23年度は(独)中小企業基盤整備機構が実施する1～2週間程度の公設試験研究機関研究職員研修へ2名の研究員を派遣することとしている。</p> <p>その他にも、人事課が募集する大学委託研究生や民間専門派遣研修生等、研究員の技術向上のための研修事業や、2週間程度の短期研修ではあるが、若手海外派遣研修など一般職員の資質向上のための研修制度も活用し、研究員のスキルアップを図ってまいりたい。</p> <p style="text-align: right;">技術者研修費 平成23年度当初予算額 642千円</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>3. 県立工業技術センターの研究員数の確保とスキルアップ</p> <p>県立工業技術センターは、中小企業に対する技術支援の中核拠点として、技術相談、機器利用等及び共同研究等を通じて、県下の中小企業の技術支援を行っている。また、我々兵庫県工業技術振興協議会の各研究会が行う技術講習会や講演会、見学会など研究会事業の遂行にもご尽力をいただいている。今後ともこれらの支援の継続が不可欠であるとの観点から、県立工業技術センターの研究員について、以下のことを要望する。</p> <p>(3) 酒類・醸造担当職員の増員</p> <p>本県が清酒の主産地であり、発酵、醸造業界を牽引する立場にある状況は変わりはない。工業出荷額、付加価値額、雇用者数いずれをとっても貢献してきた業界である。業界対応能力の向上を図るため、酒類、醸造担当職員の配置を増員していただきたい。</p>	<p>工業技術センター (技術企画部、 環境・バイオ部)</p> <p>工業振興課</p>
<p>要望事項についての現状と今後の取り組み方向等</p>	
<p>近隣府県と比較して、当センターの酒類、醸造、食品担当職員数（3名）は若干少ないのが現状である（京都市：5名、奈良県：4名、和歌山県：6名、広島県：10名）が、兵庫県においては、「第2次新行革プラン（第二次案）」において、平成20年度から30年度までの間、事務事業・組織の徹底した見直し等により、概ね3割の削減を行うこととしているため、増員は非常に困難である。</p> <p>このため、可能な限り有効な支援ができるよう努力するとともに、以下のような取り組みを進めていく。</p> <p>1 農業生産者の立場から酒造を含め食品に関する研究開発を行っている 県立農林水産技術総合センターなど、関連機関と連携して相談に対応できるように努めている。</p> <p>既に必要な情報のやり取りや、指導、相談業務上の連携などの協力は実施しており、可能な限り有機的に協働できるよう取り組んでいるが、今後は、研究紹介、指導事例報告等の定例的な交流に結び付け、重層的に中小企業の技術支援に当たれるよう努めていく。</p> <p>2 他府県の公設試験研究機関と連携を図り、研究員を勉強会、連携イベント等に可能な限り積極的に参加させ、担当者レベルでの繋がりを醸成するとともに、共同で取り組める課題を模索するなど、交流の活性化に努めている。本県に無いシーズに関しては近隣府県から導入するなど、これまで以上に柔軟で広域的な支援方策が実を結ぶよう、今後も努力していく。</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>4. データ解釈を伴う依頼試験制度の充実</p> <p>近年製造業に対して、製品のトレーサビリティを担保することが強く求められてきている。とりわけ食品業界にとっては、機能性と並んで安全性に関する情報提供が必須となっている。しかも試験・分析の結果新たな課題が抽出されることも多く、データの解釈が重要となってきた。概ね、中小企業においては試験分析結果だけでなく、技術的なディスカッションに応じてもらえるような対応が求められている。このような観点から、試験・分析に際しての事前のチェック、データの見方や対処方法等への指導助言も併せて行うというような対応を、工業技術センターとして行っていただきたい。</p>	工業技術センター (技術企画部)
要望事項についての現状と今後の取り組み方向等	
<p>依頼試験をはじめ、機器利用やテクノトライアル等の活用にあたっては、担当研究員による技術相談等を通じての試験・分析の事前チェックを行うことができ、また、得られたデータや結果の解釈についての説明等は、データや結果を手交する際に行うこととしている。</p> <p>さらに、事後に必要な際には、技術相談として対応することにより、できる限りきめ細やかな対応に努めてまいりたい。</p> <p style="text-align: right;">テクノトライアル 平成23年度当初予算額 2,500千円</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署						
<p>5. ものづくり中小企業のための人材育成の推進 (1) ものづくり中小企業の経営管理に携わる人材の育成</p> <p>私ども中小企業では、現場あるいは開発と経営トップとの間に立って、技術、企業理念、経営戦略等に幅広い視点をもつ次世代の管理者の育成が急務となっている。また、近年のものづくりのグローバル化に伴い中小企業においても英語力が必要になってきている。自社内だけでの育成には限度があり、外部で実施されるマネジメントや語学の研修が必要になってきている。このため、ものづくり中小企業の経営管理に携わる者にとって参加しやすい、ものづくり中小企業のための経営マネジメント、英会話等研修の機会を提供していただきたい。</p>	<p>経営商業課、工業振興課</p>						
<p>要望事項についての現状と今後の取り組み方向等</p>							
<p>経営に関する研修については、商工会議所・商工会で以下のような研修を実施しているので、ご活用いただきたい。</p> <p>なお、語学の研修に関しては、ビジネス英会話などは民間企業も数多く実施しているので、そちらをご利用いただきたい。</p> <p>○商工会議所・商工会の経営に役立つ講習会・研修会等</p> <p>1 主な内容 経営革新、経営一般、情報化、金融、税務、労働、その他</p> <p>2 開催実績 (H21) 商工会議所384回 商工会492回 計876回</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto; border: none;"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">平成23年度当初予算額</td> <td style="text-align: right;">15,815千円</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 10px;">商工会等広域活性化対策推進事業(県商工会連合会)</td> <td style="text-align: right;">3,835千円</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 10px;">若手後継者等育成事業費(提案公募地区事業)(県商工会連合会)</td> <td style="text-align: right;">11,980千円</td> </tr> </table>		平成23年度当初予算額	15,815千円	商工会等広域活性化対策推進事業(県商工会連合会)	3,835千円	若手後継者等育成事業費(提案公募地区事業)(県商工会連合会)	11,980千円
平成23年度当初予算額	15,815千円						
商工会等広域活性化対策推進事業(県商工会連合会)	3,835千円						
若手後継者等育成事業費(提案公募地区事業)(県商工会連合会)	11,980千円						

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>5. ものづくり中小企業のための人材育成の推進 (2) 包装分野スペシャリスト養成への支援</p> <p>消費者保護の観点から、扱いやすさや安全面、環境への配慮等に関して包装に対する基準が厳しくなっている。各企業において、包装の知識を備えた人材を養成することが急務である。このため、各企業内の包装分野スペシャリスト養成への県としての支援施策を充実させていただきたい。</p>	<p>工業技術センター (材料技術部)</p>
<p>要望事項についての現状と今後の取り組み方向等</p>	
<p>1 現在、包装技術者養成のために、近畿包装研究会と工業技術センター材料技術部が連携して、以下のとおり研修会、講習会を実施している。</p> <p>① 講習会 研究会設立時より年1～2回、講師を招いて講習会を開催している。毎回数十人参加。</p> <p>② サマーセミナー 人材育成を目的に10年前より2日間の日程でセミナーを開催。2名の外部講師により、初、中級者向けのカリキュラムで実施。参加人数は10人程度。センターは機器紹介、実習を担当している。</p> <p>引き続き、上記の講習会及びサマーセミナーを連携して実施するとともに、講習会やサマーセミナーを工業技術センターの研究成果普及事業と共催にする等の工夫により、研修内容の充実等を図る支援ができないか検討したい。</p> <p style="text-align: center;">技術情報提供事業（うち研究成果普及講習会） 平成23年度当初予算額 134千円</p> <p>2 また、工業技術センターでは、従前から、包装関係の技術アドバイザーを2名登録し、企業に派遣して技術指導や人材育成に取り組んでおり、引き続き実施を予定している。</p> <p style="text-align: center;">技術開発指導員設置事業 平成23年度当初予算額 3,915千円</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>6. 企業間の交流、情報発信の場づくり (1) 企業間の交流、情報発信の機会づくり</p> <p>各研究会の事務局を県立工業技術センターで担当してもらっていることは非常に有効な手法であり、大変喜んでいいる。兵庫県工業技術振興協議会で県下の各研究会のとりまとめをされ、総会、発表会など有意義な集まりがあるが、お互いに交流をもっとできないかと考えている。各研究会同士がより連絡をとりあえばいいということもあるが、どうも近くにいなから疎遠になっている。</p> <p>兵庫県には工業技術センター以外にも数多くの産業振興機関があるが、これら機関との広域的な連携も図りながら、さらには但馬や丹波などの地理的に遠いと考えられる地域も含めて、もっと出会う機会すなわち企業間で交流できる場を作っていただきたい。</p> <p>以前、県内企業が展示会を通じて、商品、技術を発表する場があった。その展示会での発表を目標として、技術、商品を作り上げたことがあった。現在、各種の展示会があるが、兵庫県発のビジネスモデルを県外、海外にもっと発表する機会が欲しい。</p> <p>地元だけでなく、ひろく情報を発信することが必要であり、このような観点からの交流の場づくりを企画していただきたい。</p>	<p>工業振興課、新産業課</p> <p>工業技術センター (技術支援部)</p>
<p>要望事項についての現状と今後の取り組み方向等</p>	
<p>1 工業技術センターでは、技術紹介と企業間の交流の場として、毎年、兵庫県工業技術振興協議会と共催で、ひょうご技術交流大会や研究成果発表会（テクノピア）を実施している。平成23年度は、ひょうご技術交流大会は6月7日（火）に、研究成果発表会は11月に開催を予定している。</p> <p>また、この他にも、適宜、各種技術講習会、研究会を開催（H21年度実績120回）しており、これら講習会等の開催にあわせて企業の交流の場を設けるなどの企画を検討してまいりたい。</p> <p style="text-align: right;">技術情報提供事業（うち研究成果普及講習会） 平成23年度当初予算額 134千円</p> <p>2 また、県では、国内外の企業、研究機関等による先端技術の紹介や新製品の展示を行い、出展者・来場者の技術・ビジネス交流を通じて、成長産業の育成と新たなビジネスチャンスの拡大を目的として、県内最大の産業見本市「国際フロンティア産業メッセ」を開催しているところである。</p> <p>＜開催概要＞</p> <p>開催時期：平成23年9月（予定）</p> <p>開催場所：神戸国際展示場（予定）</p> <p>事業内容：先端技術・製品展示会、講演会、セミナー、プレゼンテーション、交流会等</p> <p style="text-align: right;">国際フロンティア産業メッセ2011の開催 平成23年度予算額 8,000千円</p>	

3 このほか、(社)兵庫工業会、(公財)ひょうご産業活性化センター、兵庫県中小企業団体中央会、(社)関西ニュービジネス協議会の4団体が共催で、毎年「夏のビッグイベント」を開催している。今年度は第1部セミナー、第2部基調講演、第3部懇親会の3部構成で、300名もの参加があり大盛況であったので、来年度は是非ご参加いただきたい。

兵庫工業会技術振興事業費補助（一部を充当） 平成23年度当初予算額 3,500千円

4 さらに、(社)兵庫工業会と連携し、平成22年度から、技術開発力・製品開発力の強化、販路開拓等を通じて、阪神地域から播磨地域に集積している機械、金属、化学、電子など、全国的にも有数のものづくり産業の競争力強化を図るため、「兵庫ものづくり産業集積交流支援事業」を開始し、産学連携・企業間連携を促進するための調査・研究を実施したところである。

平成23年度は、平成22年度に設置した「兵庫ものづくり産業集積調査研究会」を「兵庫ものづくり産業集積協議会（仮称）」に改編し、調査研究会において実態調査の結果を踏まえて作成した実施計画に基づき、産学連携・企業間連携を促進する事業を実施することとしている。

（想定している事業）

- ・広域的または地域単位で、定期的に、または共通の技術テーマに基づき、中堅・中小・大企業、大学、行政が参加し、情報交換を行う技術交流会・研究会等の開催
- ・大企業が技術開発、製品開発の募集対象技術をオープンにし、高度な技術を有する中小企業との技術マッチングを行うマッチング会の開催
- ・有望な技術分野や研究開発プロジェクトに関して、大学の研究シーズと中堅・中小企業の技術力・製品開発力を連携させ、企画立案を促進させるための交流会・研究会の開催
- ・企業間連携に役立てるための中小企業の技術開発力・製品開発実績等に関するレポートの作成

兵庫ものづくり産業集積交流支援事業 平成23年度当初予算額 10,336千円

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>6. 企業間の交流、情報発信の場づくり (2) 企業間の交流、情報発信のスペースの設置</p> <p>中小企業が情報発信を行いやすくするために、アクセスの良い場所での小規模の展示会やセミナーなどができる交流スペースを設置していただきたい。併せて、県内企業であれば、低料金で利用できるような配慮をしていただきたい。</p>	<p>経営商業課</p> <p>工業技術センター (技術支援部)</p>

要望事項についての現状と今後の取り組み方向等

- 1 平成19年9月に「中小企業支援ネットひょうご」(※)の中核機関である(公財)ひょうご産業活性化センター内にセミナー、研修会、商談会の実施や企業間の相互理解と信頼構築を醸成する交流場所として「ビジネスプラザひょうご」(ホール、交流室、IT研修室)を整備し、中小企業の経営力向上を支援している。

引き続きPRに努め、更なる利用促進を図ってまいりたい。

(ビジネスプラザひょうご ホール等の利用料金)

利用料金 (円)	ホール (50~80名)		交流室 (12名)		IT研修室※ (15名)	
	平日	土日祝	平日	土日祝	平日	土日祝
9時~12時まで	5,000	5,000	—	1,000	1,500	1,500
13時~17時まで	6,000	6,000	—	1,200	1,800	1,800
18時~22時まで	5,000	—	1,000	—	1,500	—

※パソコン利用の場合は、別途、機器管理料が必要。

(ビジネスプラザひょうご利用状況)

利用区分	経営研修	販路開拓	IT研修	交流会等	計
21年度 (人)	7,788	776	335	7,016	15,915
22年度(11月末)(人)	3,571	558	210	6,017	10,356

※「中小企業支援ネットひょうご」

様々な経営課題を抱える中小企業を総合的に支援するため、県内の26の中小企業支援機関と金融機関、大学等の連携団体によるネットワークを構築し、ワンストップで企業のニーズに的確に対応する仕組み。

工業技術センターも技術支援機関として参画している。

中小企業支援センター運営費 平成22年度予算額 7,880千円

2 工業技術センターでは、現在、産業技術センター棟に研修室を設置し企業等がセミナー等に利用できるスペースとして開放している。

利用料金 (円)	第2研修室 (36名収容)	第3研修室 (54名収容)	両室一括使用 (90名収容)
9時～12時まで	1,000	1,400	2,300
13時～17時まで	2,000	2,600	4,500
18時～22時まで	2,300	3,300	5,300

また、現在整備を進めている新研究棟には、小規模の展示会やセミナーなどができる交流スペースを設置する計画である。

現状の研修室の面積： 約125m²

新棟セミナー室の面積： 約130m² (2部屋に分割可能)

工業技術センターの整備 平成23年度当初予算額 1,736,447千円

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>6. 企業間の交流、情報発信の場づくり (3) 技術情報発信の見本市の開催</p> <p>上記交流スペースでの兵庫県工業技術振興協議会各研究会による15技術分野の見本市を開催していただきたい。</p>	<p>工業技術センター (技術支援部)</p>
<p>要望事項についての現状と今後の取り組み方向等</p>	
<p>新研究棟には、大きなスペースではないが、1階に展示室を整備することとしており、兵庫県工業技術振興協議会の各研究会の会員企業が持つ技術を紹介する展示も考えていきたい。</p> <p>また、現在は見本市等の開催に対する支援は行っていないが、兵庫県工業技術振興協議会の各研究会とも十分に協議しながら、会員企業による15の技術分野の見本市の開催を検討してまいりたい。</p> <p style="text-align: right;">工業技術センターの整備 平成23年度当初予算額 1,736,447千円</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>6. 企業間の交流、情報発信の場づくり (4) 兵庫県工業技術振興協議会及び各研究会の活動の他府県PRへの支援</p> <p>兵庫県工業技術振興協議会のホームページ（HP）を他府県や関係団体のHPへリンクする等、当振興協議会や各研究会の活動を他府県へPR、情報発信することに支援していただきたい。</p>	工業技術センター (技術支援部)
要望事項についての現状と今後の取り組み方向等	
<p>現在、工業技術センターのホームページについて、魅力アップを図る大幅なリニューアルを計画しており、平成23年4月からリニューアル版を運営できるよう検討を進めている。</p> <p>兵庫県工業技術振興協議会のホームページは、利用者の利便性を考えて、工業技術センターのホームページのトップページにリンクしているが、リニューアル後も引き続きトップページの見やすい箇所へリンクするとともに、他府県や関係団体のHPへのリンク要請を行い、情報発信への支援を図ってまいりたい。</p> <p>なお、兵庫県工業技術振興協議会の会員企業と工業技術センターが関係するイベントや製品開発などについては、積極的に新聞等への情報発信など広報活動に注力しているところである。</p> <p style="text-align: right;">技術情報提供事業 平成23年度当初予算額 2,670千円</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署									
<p>6. 企業間の交流、情報発信の場づくり (5) 県立工業技術センターと企業との技術交流強化</p> <p>県立工業技術センターと企業との技術交流体制の構築、コーディネート機能の充実や異業種交流による新事業の創出などをさらに充実させていただきたい。</p> <p>とりわけ、新製品開発等には異業種交流が非常に役立つところであり、兵庫県には15の研究会が参画している兵庫県工業技術振興協議会があるので、この協議会の異業種交流の機能をより充実するための支援をいただきたい。</p>	<p>工業技術センター (技術支援部)</p>									
<p>要望事項についての現状と今後の取り組み方向等</p>										
<p>1 あらゆる技術相談に対応する総合相談窓口“ハローテクノ”を開設し(21年度 相談件数9,329件)、個別の技術相談や現場訪問による技術指導、機器利用への案内や工業技術センターとの共同研究のコーディネートなど企業の課題解決への取り組みにつなげるとともに、移動工業技術センターにより出前相談に対応しながら、各種セミナーや展示会に積極的に出展(21年度実績15回)し、工業技術センターが保有する技術情報の企業への周知に努めている。</p> <p>こうした地道な活動を通じて、工業技術センターと企業との技術交流体制の構築、工業技術センターのコーディネート機能の一層の充実を図ってまいりたい。</p> <div style="text-align: right; margin-top: 20px;"> <table style="margin-left: auto; margin-right: 0;"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">技術支援嘱託員設置事業</td> <td style="padding-right: 10px;">平成23年度当初予算額</td> <td style="text-align: right;">7,005千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 10px;">移動ものづくり支援事業</td> <td style="padding-right: 10px;">平成23年度当初予算額</td> <td style="text-align: right;">1,582千円</td> </tr> </table> </div> <p>2 兵庫県工業技術振興協議会に参加している15の研究会の相互の異業種交流を促進するため、工業技術センターでは、技術紹介と企業間の交流の場として、毎年、兵庫県工業技術振興協議会と共催でひょうご技術交流大会や研究成果発表会(テクノピア)を開催している。平成23年度は、ひょうご技術交流大会は6月7日(火)に、研究成果発表会は11月に開催を予定している。</p> <p>また、この他にも、適宜、各種技術講習会、研究会を開催(H21年度実績120回)しており、これらの講習会等の開催を兵庫県工業技術振興協議会の会員企業に案内するとともに、企業の交流の場を設けるなど、異業種交流機能の充実という観点からの企画も検討してまいりたい。</p> <div style="text-align: right; margin-top: 20px;"> <table style="margin-left: auto; margin-right: 0;"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">技術情報提供事業(うち研究成果普及講習会)</td> <td style="padding-right: 10px;">平成23年度当初予算額</td> <td style="text-align: right;">134千円</td> </tr> </table> </div>		技術支援嘱託員設置事業	平成23年度当初予算額	7,005千円	移動ものづくり支援事業	平成23年度当初予算額	1,582千円	技術情報提供事業(うち研究成果普及講習会)	平成23年度当初予算額	134千円
技術支援嘱託員設置事業	平成23年度当初予算額	7,005千円								
移動ものづくり支援事業	平成23年度当初予算額	1,582千円								
技術情報提供事業(うち研究成果普及講習会)	平成23年度当初予算額	134千円								

兵庫県への要望に対する回答

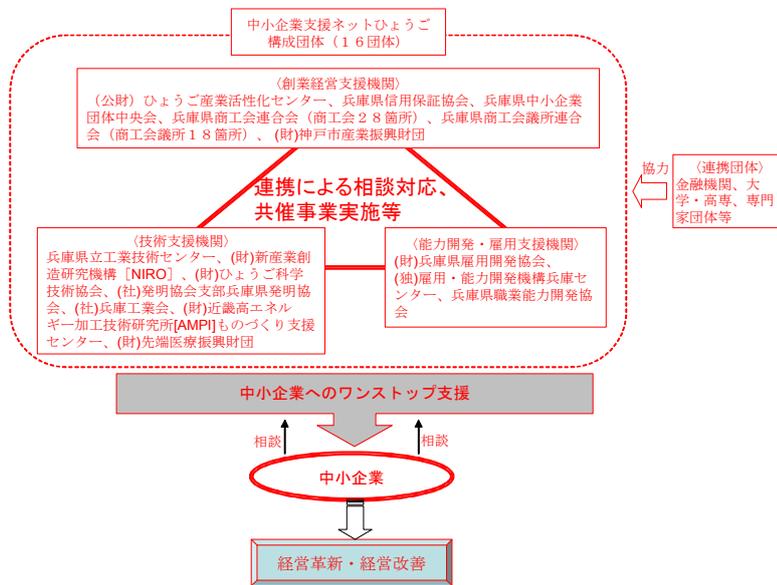
要望事項	関係部署
<p>7. 産業振興機関の相談窓口としてのワンストップサービスの充実</p> <p>兵庫県には産業振興の機関として、工業技術センター以外にも、NIRO、ひょうご産業活性化センター、ひょうご科学技術協会、ものづくり支援センターなどの機関があるが、これらがどのような役割を果たしているのか、よくわからない。兵庫県全体の相談窓口としてのワンストップサービスの充実を図っていただきたい。</p>	経営商業課

要望事項についての現状と今後の取り組み方向等

兵庫県では、様々な経営課題を抱える中小企業を総合的に支援するため、(公財)ひょうご産業活性化センターを中核機関とした県内の16の中小企業支援機関と金融機関・大学等の連携団体によるネットワークを構築し、ワンストップで企業のニーズに的確に対応する仕組みを整備している。

今後は、支援ネットの構成団体が個々に実施している事業やイベントの連携実施や相談情報の共有化等による相談ネットワーク体制の確立などにより、施策を利用する中小企業にとって一層の利便性の向上を図っていく。

中小企業支援体制強化対策事業 平成23年度当初予算額 17,382千円



(中小企業支援ネットひょうご構成団体による相談助言実績)

分野	創業	経営革新	経営活性化	技術力向上	合計 (件)
21年度	2,705	12,791	99,345	15,780	130,621
22年度上半期	1,311	3,023	61,611	7,619	73,564

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>8. 環境（エコ等）問題対策に関わる中小企業向け研究開発補助金などの支援施策の充実 (1) 環境（エコ等）分野の中小企業向け研究開発補助制度の創設</p> <p>省エネ、自然エネルギー活用、電気自動車等に関わる新技術開発など、二酸化炭素削減に関連する研究開発に対し、県として技術支援、開発費援助などを行い、中小企業における新規事業立ち上げを活性化する施策が必要である。国などもそうした補助金等の支援制度があるが、大型であり中小企業がトライできるようなものではない。ぜひ県の施策として中小企業がトライできる適切な補助金等支援制度を創っていただきたい。</p>	<p>新産業課</p>
<p>要望事項についての現状と今後の取り組み方向等</p>	
<p>県では、先端産業や健康・医療、環境・エネルギーなど、成長分野の産業の創出を図るため、大学・研究機関、企業の研究成果等の知的資源を有効に活用して、産学官連携や事業連携、技術開発型ベンチャーの創出等を促進するため、研究の立ち上がり期から事業化に至るまでの各段階に応じた補助、投融資、技術・経営支援などを展開している。</p> <p>補助制度としては、産学官連携による研究開発を支援する「兵庫県COEプログラム推進事業」（補助金額：本格的な研究開発移行枠500～1,000万円／件・先導的研究枠50～200万円）を実施しており、共同研究チームの構成員として「県内に事業所を有し、かつ、県内で研究活動を行っている中小企業者を少なくとも一者含むこと」を採択要件にしているところである。</p> <p style="text-align: center;">兵庫県COEプログラム推進事業 平成23年度当初予算額 65,281千円</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>8. 環境（エコ等）問題対策に関わる中小企業向け研究開発補助金などの支援施策の充実</p> <p>(2) 食品（バイオ）分野の新技术開発に対する競争的資金の充実</p> <p>兵庫県バイオ技術研究会会員のプロジェクトが、兵庫県COEプログラム推進事業に採択された事もあるが、全体としてはナノテクや健康・医療関係が多いように思われる。兵庫県COEプログラム推進事業よりも補助金額は少なく構わないので、食品（バイオ）の安全・安心に関する技術開発や、「ひょうご食品認証制度」に合致するような商品開発に対しての競争的資金の充実を図っていただきたい。</p>	新産業課
要望事項についての現状と今後の取り組み方向等	
<p>産学官連携による立ち上がり期の予備的・準備的な研究プロジェクトの本格的な研究開発への移行を支援する「兵庫県COEプログラム推進事業」（補助金額：500～1,000万円／件）について、平成23年度から新たに文献調査を中心とした萌芽的・準備的なレベルの研究調査を支援する「先導的研究枠」（補助金額：50～200万円）を設けたところである。</p> <p>兵庫県COEプログラム推進事業 平成23年度当初予算額 65,281千円</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>8. 環境（エコ等）問題対策に関わる中小企業向け研究開発補助金などの支援施策の充実</p> <p>(3) ものづくり企業に対する補助金等制度の充実等</p> <p style="padding-left: 20px;">ものづくり企業に対する補助金、助成金制度の充実を図るほか、兵庫県工業技術振興協議会各研究会への助成金制度の新設を検討していただきたい。</p>	<p>工業振興課、新産業課</p>

要望事項についての現状と今後の取り組み方向等

地場産業の振興に関しては、意欲ある産地企業等が行う新分野進出に向けた新製品・新技術の研究開発やブランド創出等への取り組みに対して所要額の1/2を補助する「新分野進出等支援事業」を実施しているので、活用していただきたい。

新分野進出等支援事業 平成23当初予算額 15,550千円（3月中旬募集開始）

また、無利子、長期の貸付制度である「実用化開発資金貸付」により、ものづくり分野における新規性、独創性のある新規事業開発に取り組む中小企業者等を支援しているところである。

<制度概要>

貸付対象者	ものづくり、IT分野における新規性、独創性のある新規事業開発に取り組む中小企業者等
対象分野	健康、生活文化、情報通信、環境・エネルギー、ナノテクノロジー・新製造技術・新素材、輸送・物流、ビジネスサポート、防災・安全
対象経費	①試作段階までの新製品・新技術の実用化開発及び新サービスの実証に必要な経費 ②マーケティング調査、販路開拓及びビジネスモデル開発に必要な経費
貸付割合	70%以内
貸付限度額	3,000万円（単年度1,500万円）
貸付利率	無利子
貸付期間等	10年（うち据置3年）以内 半年賦償還
担保・保証人	原則として代表者保証のみ（個人の場合は、担保又は連帯保証人の選択制）
貸付目標額	2億円

兵庫県工業技術振興協議会各研究会への助成金制度の新設については、兵庫県では、新行革プランに基づき、平成20年度に民間団体に対する事業費補助を10%削減するなど一定率を削減したところである。

このような非常に厳しい財政状況のなか、新たな助成金制度を創設するのは困難である。

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>9. 「ものづくり」地域産業・地場産業の伝統を守り、育てるための技術支援の充実</p> <p>(1) 「ものづくり」地域産業・地場産業の伝統を守り、育てるため、若手人材育成に向けた実演、実技を含む講習会や講演会、技術指導、情報提供等を地元で行う等の技術支援を充実させていただきたい。</p>	<p>工業技術センター (機械金属工業技術支援センター、 繊維工業技術支援センター、 皮革工業技術支援センター)</p>

要望事項についての現状と今後の取り組み方向等

【機械金属工業技術支援センター関係】

- 1 工業技術センターにおいて平成 21 年度から実施している「ものづくり基盤技術入門研修」として、平成 22 年度は、「金属材料の評価方法」をテーマに、若手人材育成に向けた実演、実技を含む講習会として 1 コース実施した。今後も引き続き実施してまいりたい。

実施日 平成 22 年 12 月 8 日から 9 日の 2 日間

実施人数 6 名

受講料 13,000 円/人

ものづくり基盤技術人材育成事業 平成 23 年度当初予算額 1,000 千円

- 2 また、平成18年度から若手人材育成のための基礎技術講習会（平成20年度まで14回実施）を行うとともに、平成21年度においては三木商工会議所が主催するセミナーへの講師派遣（12回）を行ってきた。

さらに、平成 22 年度は、三木商工会議所との共催により、ほぼ月 1 回のペースでものづくり基礎技術講習会を実施しており、本セミナーでは、外部講師を招聘し、「明日につながる確かな技術」として基礎講座を開催するとともに、機械金属工業技術支援センターの研究員が、支援センターの活用や機器及び利用技術についてデモを交えて紹介している。

今後も引き続き、地域のニーズに即した内容での実施に取り組んでいく。

《平成 22 年度実施状況》

実施月	テーマ	外部講師
6 月	鋼の熱処理 Q & A	—
7 月	センター紹介	—
8 月	機械図面の見方 I、II、III	神戸市立高専教授
9 月	金属組織観察と硬さ試験	—
10 月	電子顕微鏡観察等表面分析	—
11 月	強度試験と火花試験	—
12 月	材料技術による最近の開発事例	—
1 月	切削加工の基礎	県立大学教授
2 月	最近のセンターでの開発事例紹介	—
3 月		

3 そのほか、所長が伝統工芸品「播州三木打刃物」表示検査委員会の委員長、副所長と技術課長が委員となり、委員会の運営と指導にあたっている。また、当該委員会の出展品の硬さ試験や組織試験も行い、さらに、伝統工芸士試験の受験者に対し知識試験（専門科目）に係る講義も行っている。このほか、三木金物振興審議会、三木金物ニューハードウェア賞審査会、三木市新商品発注に係る認定審査会、小野市新殖産品選考委員会などの委員としての活動を通じて、技術的な分野での指導、助言を行っているところであり、今後も引き続き、このようなきめ細かい支援を行ってまいりたい。

【繊維工業技術支援センター関係】

1 「ものづくり基盤技術入門研修」として、平成22年度は、「織物の製造方法の基礎と品質評価」をテーマに、若手人材育成に向けた実演、実技を含む講習会として1コース実施した。今後も引き続き実施してまいりたい。

実施日 平成22年11月15日から16日の2日間

実施人数 7名

受講料 13,000円/人

ものづくり基盤技術人材育成事業 平成23年度当初予算額 1,000千円

2 また、繊維の種類、組織、製織など、基礎から実践までをほぼマンツーマン指導の講習を行うことにより養成している（主として、新入社員を対象に年度の上期に実施）。

実施回数 7回（1回当たり延べ 約30日間）

実施人数 9名

3 さらに、「ものづくり」地域産業・地場産業の伝統を守り、育てるため、人材育成に向けた実演、実技を含む講習会・体験教室や講演会（年4回実施）、オリジナル織物などの展示会（年3回実施）を地元で開催している。

【皮革工業技術支援センター関係】

1 製革業、革製品製造業および皮革関連業界の技術者、経営者として必要な専門的かつ合理的な技術の習得を目的として「兵庫県皮革大学校」を実施している。

《平成22年度実施状況》

1. 皮革製造基礎部門（皮革製造技術・皮革情報技術の講義）、
7月～8月および2月実施、参加人数16名

2. 皮革製造技術部門（皮革製造実習）、7月および9月実施、参加人数5名

3. バッグ製造技術部門（バッグの製造技術の講義と実習）、8月実施、参加人数7名

4. 靴製造部門実習（靴の製造技術の講義と実習）、10月実施、参加人数5名

皮革大学校設置事業費 平成23年度当初予算額 7,000千円

2 また、平成21年度には「日本エコレザー基準の依頼試験に関する技術講習会」を姫路市とたつの市で開催した。（平成21年3月実施）

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>9. 「ものづくり」地域産業・地場産業の伝統を守り、育てるための技術支援の充実</p> <p>(2) 地場産業を支えていくというのが工業技術センターの使命であり、工業技術センターは、持っているスキルをもっと地元業界にPRして地元企業との交流を増やし、その中から地元企業の支援につながるような製造現場での問題に係るようなテーマで共同研究開発に取り組んでいただきたい。</p> <p>(3) 三木金物や淡路瓦など地場産品に対する付加価値を高めたり、新しいデザインをつくる等の研究開発が必要であり、地場産業の産地は零細企業が集まった所であることにも鑑み、業界のための新商品開発、新技術開発に向けて、県立工業技術センターの強力な支援をいただきたい。</p>	<p>工業技術支援センター (技術企画部、材料技術部、機械金属工業技術支援センター、繊維工業技術支援センター、皮革工業技術支援センター)</p>

要望事項についての現状と今後の取り組み方向等

1 工業技術センターでは、県下の中小企業から寄せられる技術相談、センター利用案内、情報提供等に的確に対応できるようにするため、総合相談窓口「ハローテクノ」を設置している。(平成21年度相談実績 9,329件)

さらに、地域の中小企業が抱える課題やニーズを把握しながら地元企業への支援につなげていく目的で、「移動工業技術センター」として、工業技術センターの研究員が県下各地に出向いて臨時の相談窓口を設け、保有する研究開発成果やシーズ等の紹介、利用案内を現地で行っている。(平成21年度は15回実施)

また、企業からの要請を受けて研究員が現場を訪問し技術支援を行っている(平成21年度実績180企業)が、これらに加え、積極的に地域企業のニーズにアプローチするため、毎年、実施地区を定めて集中的に当該地区の企業訪問を行う「集中企業訪問」を実施している。

<集中企業訪問>

年 度	対象地区	訪問企業数
21	神戸地区	108
22	中播磨・西播磨地区	93

技術支援嘱託員設置費	平成23年度当初予算額	7,005千円
移動ものづくり支援事業	平成23年度当初予算額	1,582千円

2 また、技術相談や企業訪問等を通じて調査・把握した企業の課題やニーズの中から現場の課題を解決し、地元企業の支援につながるような取り組みを進める必要がある。こうした認識のもとに、お試しの実験準備的なミニ研究である「テクノトライアル」をはじめ、企業と一緒に開発に取り組む「共同研究」や「受託研究」を実施している。さらに、重点領域研究や技術改善研究等の県単独事業や、外部競争資金を獲得して行う研究事業に取り組んでいるところであり、今後も引き続き、このような取り組みを通じて、地元企業の抱える技術的な課題の解決や新製品の研究開発を支援してまいりたい。

<平成21年度実績>	テクノトライアル	72件
	共同研究、受託研究	90件
	重点領域研究、技術改善研究	14件
	外部競争資金獲得研究	34件

テクノトライアル	平成 23 年度当初予算額	2,500 千円
共同研究費	平成 23 年度当初予算額	41,000 千円
試験研究費	平成 23 年度当初予算額	27,316 千円
重点領域研究推進事業	平成 23 年度当初予算額	5,000 千円
技術改善研究費	平成 23 年度当初予算額	7,334 千円
産業基盤技術受託等研究事業費	平成 23 年度当初予算額	18,000 千円

3 なお、地場産業を支えていく観点から取り組んでいる具体的な研究事業のうち、主なものは以下の通りである。

(1) ゴム関係

近年では下記の研究テーマを、企業と共同で実施している。ゴムの研究は業界からのニーズに対応したものが多く、今後も企業と連携した研究を積極的に進める。

① 外部競争資金獲得研究

- ・フェノール樹脂を活用したソフトナノマテリアルの開発（JST シーズ発掘）（平成 20 年度）
- ・地域産業資源を活かした天然ゴム端材の有効利用に関する調査・研究（NIRO FS）（平成 20 年度）
- ・高齢者と福祉用具との共存を推進するゴム製段差解消スロープの開発（JST ニーズ即応）（平成 21 年度）

② 共同研究

- ・スポンジ成形の最適化に関する研究（平成 20 年度）
- ・高性能ゴム複合材料に関する研究（平成 20 年度）
- ・架橋発泡スポンジのセル微細化に関する研究（平成 20 年度）
- ・合成ゴムのシート化に関する研究（平成 20 年度）
- ・ゴムプラグによるプラスチック材料の減溶化に関する研究（平成 21 年度）
- ・高機能化 NBR の製品化に関する研究（平成 21 年度）
- ・難燃性 NBR の製品化に関する研究（平成 22 年度）
- ・珪藻土の有機高分子材料に対する機能の把握（平成 22 年度）
- ・難燃性・耐摩耗性ゴム材料の製品化に向けた材料検討（平成 22 年度）

(2) 淡路瓦関係

淡路瓦共同組合、淡路瓦技術研究会と連携をとりながら、研究開発に取り組んでいるところであり、今後もこれらの取組を積極的に進める。

① 「瓦屋根標準設計施工ガイドライン」に沿った「耐風圧力性能試験」「耐地震力性能試験」

淡路瓦の品質向上を目指し、淡路瓦共同組合と共同で平成 18 年度からを実施している。

② 未風化粘土への可塑性付与技術の開発、クールーフ用の遮熱瓦の開発など工業技術センターの経常研究で、新製造技術の開発を行っている。

③ 太陽熱利用温水装置の開発

淡路特産のいぶし瓦の集熱特性を活かした研究開発を淡路瓦新エネルギー研究開発グループとともに実施している。

(3) 三木金物製品関係

三木特産工業技術研究会と連携をとりながら、研究開発に取り組んでいるところであり、今後もこれらの取組を積極的に進める。

① 技術改善研究

地元企業の製造現場における問題に直結した課題を技術改善研究として実施している。平成 22 年度には、「ニッケルめっき代替プロセスの開発に関する研究」により、環境にやさしく、低コストのニッケルアレルギー対策用めっき技術の開発を行っている。また、平成 23 年度には、「自走式草刈機用刃物の開発」により、地場産業金物製品である自走式草刈機用刃物の高品質化を検討中である。

② 三木金物新製品・新素材開発への支援

三木市が行っている新規事業「三木金物新製品・新素材開発支援補助金」事業を活用して、地元企業と共同研究契約を締結し、新製品開発に取り組んでいる。

(4) 播州織関係

播州織業界からのニーズ、要望には、オリジナル織物の開発から生産現場の合理化に至るまで、様々な課題があり、国等からの競争的資金を獲得して、播州織業界と密に連携した研究開発に取り組んでいるところであり、今後もこれらの取組を積極的に進める。

① 繊維製品の多用途分野への展開(極細繊維、炭素繊維を組み合わせた複合繊維の開発)

② 繊維系廃棄物の有効活用(バイオエタノールの製造技術開発)

③ 多品種少量生産・短納期化対応生産システムの開発(生産技術開発)

このほか、大型研究プロジェクトとして、播州織業界と共同で、多品種小ロット・短納期対応型整経システムの開発をはじめ、新商品開発、コストダウンや地球環境に配慮した新技術の開発を目指して、国等からの競争的資金を獲得し、産学官連携の下、主として以下の事業に取り組んでいる。

① 小ロット・短納期対応の整経システムの開発(2課題)

(戦略的基盤技術高度化支援事業、地域イノベーション創出研究開発事業:近畿経済産業局から受託)

② 刺繍織(スワイベル織)による無縫製織物ドレス実用化の研究開発

(戦略的基盤技術高度化支援事業:近畿経済産業局から受託)

③ 繊維系廃棄物からの省エネ型バイオエタノール製造技術開発

((独)新エネルギー・産業技術総合開発機構から受託)

④ 繊維系配列検査システムの研究開発((独)科学技術振興機構から受託)

⑤ 縫合技術を用いたカーボン複合糸から作製する高耐久性バネ材料の開発

((独)科学技術振興機構から受託)

⑥ 炭素繊維と熱可塑性樹脂で構成された複合材料、部材の開発

((財)新産業創造研究機構から受託)

(5) 皮革製品関係

兵庫県皮革産業協同組合連合会、社団法人日本タンナーズ協会、兵庫県バイオポリマー研究会や兵庫県革製品研究会と連携をとりながら、研究開発に取り組んでいるところであり、今後もこれらの取組を積極的に進める。

○共同研究(平成22年度)

- ・革のかちん染(藍染め)技術の確立とその商品開発
- ・兵庫レザーを使用したファッショングッズデザインの創作研究
- ・製菓廃棄物(滅菌済み兎の皮)のタンパク質源としての活用技術の開発
- ・亜臨界水を利用する重合体への分解処理装置の開発と改良
- ・非クロム鞣しによる新素材の開発
- ・環境対応革実用化に関する調査、研究
- ・皮革の高品質化に関する研究

このほか、平成22年度は皮革産業においてニーズの高い、高堅ろう性染色技術の開発及びニホンジカの特長評価を実施しており、平成23年度はナノエマルジョン加脂を利用した皮革製造技術の開発を実施する予定である。

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>9. 「ものづくり」地域産業・地場産業の伝統を守り、育てるための技術支援の充実</p> <p>(4) 機械金属工業技術支援センターの廃止による地元業界へのサービス低下を招かないような対策を講じていただきたい。また、工業技術センター（神戸）の中に、三木の地場産業に精通した担当スタッフを配置した部門を設けていただきたい。</p>	工業振興課
要望事項についての現状と今後の取り組み方向等	
<p>機能集約後も三木金物に対する技術相談体制が低下しないよう、地元企業のニーズに応じた移動工業技術センター、企業訪問、技術講習会、三木特産工業技術研究会等への支援などソフト面での技術支援を検討する。</p> <p>また、工業技術センターの新研究棟建設後は、機械金属専門部署を設け、本所における多様な企業ニーズに対するワンストップで高度な技術支援サービスに加え、日常的な技術相談・指導等について三木市や関係団体と連携を図りつつ対応していくこととしており、製品開発や技術力に対する総合的な支援機能の向上を図っていく。</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>10. 中小企業への信用保証の充実</p> <p>リーマンショック以降の景気の後退は、昨今底を打ち、徐々に持ち直し始めていると言われているが、中小企業にとってはなかなか底を脱出できていないというのが実感である。そのため、経営的な側面を中心として以下の施策を講じていただきたい。</p> <p>(1) 信用保証協会の保証料の値下げ (2) 信用保証協会の保証枠の拡大</p>	<p>地域金融室</p>
<p>要望事項についての現状と今後の取り組み方向等</p>	
<p>(1) 保証料は、信用保証制度を円滑に運営するために不可欠なものであり、その料率については、全国的に基準が定められている。平成18年4月から、一律であった料率(1.35%)から9区分の料率(責任共有外0.50%~2.20%)に改め、利用企業の経営状況に応じた料率としているところである。また、責任共有制度の導入に伴って、責任共有対象保証については、さらに低い保証料率(0.45%~1.90%)に設定された。</p> <p>加えて、兵庫県信用保証協会では、協会独自に全国的な基準から保証料率を各々0.1%引き下げる各種の割引制度(①会計処理に関する割引、②有担保割引、③中小企業の技術力や将来性を評価する「技術評価制度」を活用した割引等)を設けているところである。</p> <p>また、このたびの全国的な不況に対応し、多くの中小企業に利用されている「景気対応緊急保証制度」の保証料率は0.8%であり、他の保証の保証料よりも低く設定されており、同制度終了後の平成23年度から適用される「セーフティネット保証(5号)」についても保証料率は同程度の低率になるものと見込まれる。</p> <p>(参考)セーフティネット保証(5号)の対象 特に業況の悪化している業種に属し、かつ売上が一定以上減少している等の中小企業</p> <p>(2) 通常の保証枠による保証(限度額2億8千万円)のほか、セーフティネット保証(限度額2億8千万円)など特定の目的に応じた別枠の保証もあるところであり、1件あたりの保証債務残高は、平成21年度末で約12百万円であることから、保証枠の拡大が必要な状況ではないものと考えている。</p> <p>なお、保証枠の拡大が必要な状況になった場合は、信用保険法の見直しを伴う全国的な課題であり、中小企業のニーズや返済能力を見極めたうえで、国に対し要望してまいりたい。</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署												
<p>11. 理科離れ対策としての小中学校の理科教育の充実</p> <p>電子関連産業のこれからを担う人材の育成として、理科離れが進んでいる小中学校の理科教育の補強充実を図っていただきたい。</p> <p>理科授業が苦手という先生が過半数というアンケート結果もあり、小学校の理科授業は専科教師による授業として、担任が補助に入るとすることも考えていただきたい。担任の先生も専科授業で理科授業を学ぶこともできるのではないかと。</p> <p>中学校においては、すでに専科教師による授業となっているが、数学などで行っているような少人数教室、補助教員の追加など、さらなる対応を考えていただきたい。</p>	<p>教育委員会義務教育課</p> <p>工業技術センター (技術支援部)</p>												
<p>要望事項についての現状と今後の取り組み方向等</p>													
<p>小学校5・6年生の理科の観察・実験等の時間に、教員の支援を行う理科推進員(補助員)を派遣する「理科おもしろ推進事業」を実施し、理科の充実・活性化を図っている。</p> <p>また、5・6年生で、学力の向上や小・中学校の円滑な接続を図るため、「教科担任制」と「少人数学習集団の編成」を組み合わせた「兵庫型教科担任制」を実施しているが、その教科にいずれも理科を導入し、重点的に取り組んでいるところである。</p> <p>中学校においては、企業研究者等の科学技術の専門的な知識や技能を持った専門家を招聘し、科学に関する授業等を行う「科学の達人招聘事業」を実施し、理数教育の充実を図っている。</p> <p>教員の指導力など専門性や資質の向上については、経験豊富な教員OB及び専門性の高い民間人を小・中学校へ派遣する「スーパーティーチャー派遣事業」を実施するとともに、教員研修において、県下各小学校の理科及び算数の担当教員と中学校の理科及び数学の担当教員対象に、観察・実験や算数的(数学的)活動などの指導方法についての研修を行い、学習指導の在り方の助言等を行っている。</p> <p>今後とも、これらの施策を統合的に推進し、理科教育の充実を図っていく。</p>													
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">平成23年度当初予算額</td> <td style="padding-right: 20px;">兵庫型教科担任制</td> <td style="text-align: right;">731,879千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>理科おもしろ推進事業</td> <td style="text-align: right;">30,386千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>スーパーティーチャー派遣事業</td> <td style="text-align: right;">21,523千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>科学の達人招聘事業</td> <td style="text-align: right;">1,521千円</td> </tr> </table>		平成23年度当初予算額	兵庫型教科担任制	731,879千円		理科おもしろ推進事業	30,386千円		スーパーティーチャー派遣事業	21,523千円		科学の達人招聘事業	1,521千円
平成23年度当初予算額	兵庫型教科担任制	731,879千円											
	理科おもしろ推進事業	30,386千円											
	スーパーティーチャー派遣事業	21,523千円											
	科学の達人招聘事業	1,521千円											

また、工業技術センターにおいては、子ども達にもものづくりに対する興味を持ってもらう観点から、以下のような事業を実施しており、今後も、継続して実施していく。

1 サマースクール（わくわくおもしろ科学実験）

- (1) 対 象 小学4年生～中学3年生
- (2) 実施時期 7月下旬（半日）
- (3) 内 容 液体窒素を用いた科学実験など
- (4) 受講者数 19名（H22）、20名（H21）

2 トライやるウィークの受け入れ

- (1) 対 象 中学2年生
- (2) 実施時期 5,6月又は10,11月
- (3) 実施期間 1週間
- (4) 内 容 工業技術センターの業務体験
- (5) 受講者数 12名（H22）、17名（H21）